資料2

石子沢川流域水害対策計画について

東北地方整備局

山形河川国道事務所

令和7年3月26日　石子沢川流域水害対策計画策定

国土交通省
山形河川国道事務所

- 令和6年3月5日に最上川水系石子沢川等を特定都市河川・流域の指定。
- 令和7年3月26日に「第3回石子沢川流域水害対策協議会」を開催し、「石子沢川流域水害対策計画」を策定。



東北地方整備局　安岡（やすおか）副局長

- 計画は、田んぼダム、農業用水路を活用した雨水の排水、公共施設の再配置と雨水貯留施設の整備、防災教育の取り組みなど、**流域のあらゆる関係者が連携する内容となっており、全国の流域治水のモデルとなるような計画**だと考えている。



中山町（なかやままち）　佐藤（さとう）町長

- 公共施設の再配置に伴う雨水貯留施設の整備など町でも取組みを進めていくが、流域の関係者による協力がなければ、効果が実現されない。
- 関係者による推進を担う組織を立ち上げて、計画を実行していく。



山辺町（やまのべまち）　佐藤（さとう）副町長

- 石子沢川流域における住民生活の安全・安心がしっかり確保されることを強く期待したい。
- 山辺・中山両町で災害協定を締結し、お互いの状況をより一層緊密に共有し、防災・減災に向けて連携して取り組んで参りたい。



最上堰土地改良区　縄野（なわの）理事長

- 最上堰の活用や田んぼダム推進等、土地改良区への期待もかなり大きいように感じる。
- 大雨時の施設巡回など改良区だけでは限界があるので、国、県、町からも絶大なる支援と、関係機関の連携が密になるよう体制を構築していただきたい。



ゲンサイデイズ　細谷（ほそや）代表

- 防災意識の熟成、本来の流域治水のあり方、意義というものをより広く、住民そして県民全体に発信周知していく必要性を強く感じた。
- 持続可能な郷土への思いを育むため、防災減災教育を一層推進していく。



山形県村山総合支庁建設部　大津（おおつ）部長

- 計画に位置付けした石子沢川や新堀川の管理をしっかりと行い、被害低減に取組むとともに、引き続き関係機関と連携し、貯留機能保全区域の検討なども進める。
- 石子沢川流域の取組みをモデルとして他の河川へ特定都市河川事業を展開していきたい。



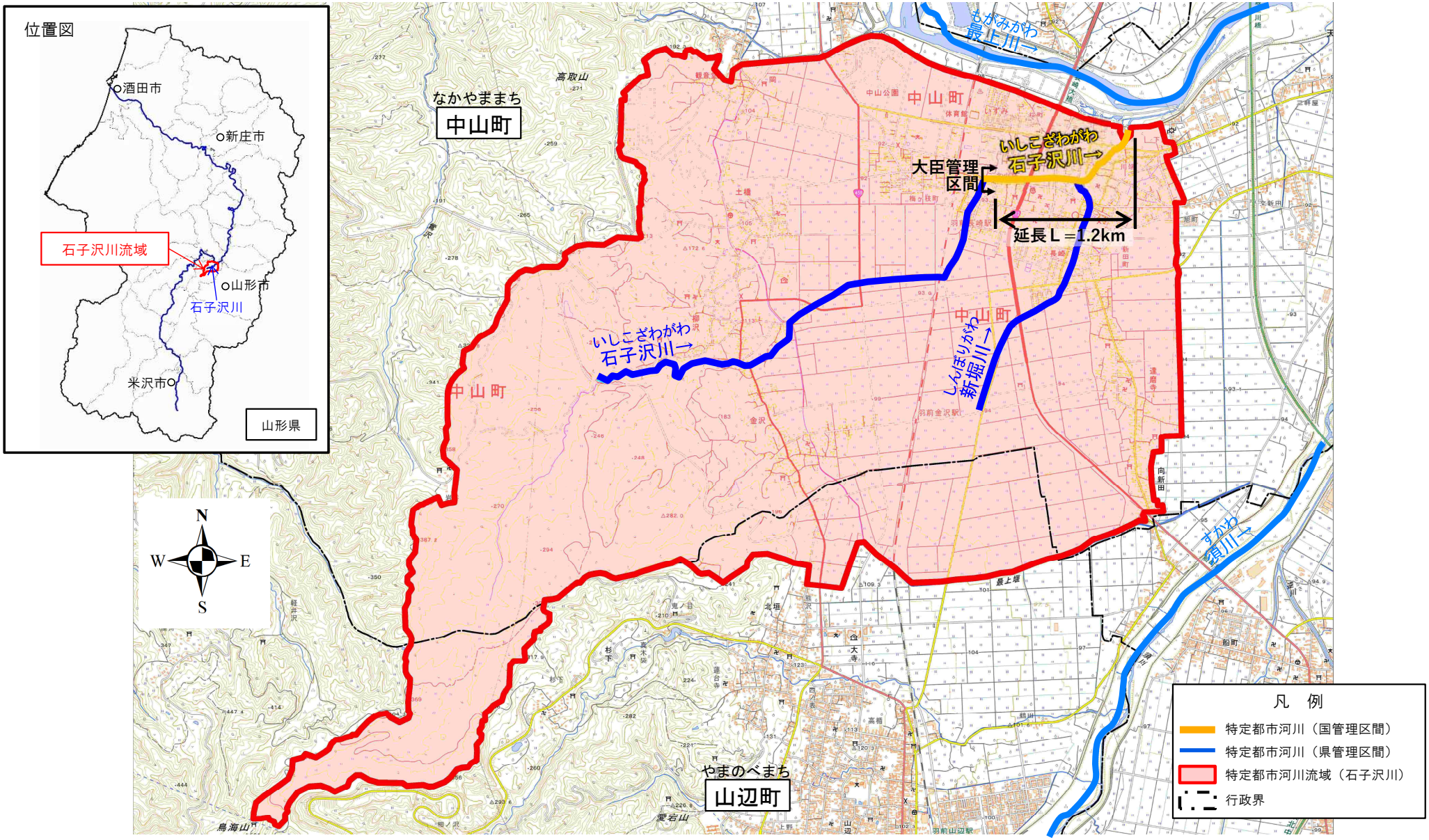


【出席者】 上記写真左から

東北地方整備局局長（代理）　安岡副局長
気象庁山形地方気象台　有賀台長
ゲンサイデイズ　細谷代表
山辺町長（代理）　佐藤副町長
中山町　佐藤町長
最上堰土地改良区　縄野理事長
東北農政局農村振興部長（代理）　平山地方参事官
山形県知事（代理）　大津村山総合支庁建設部長

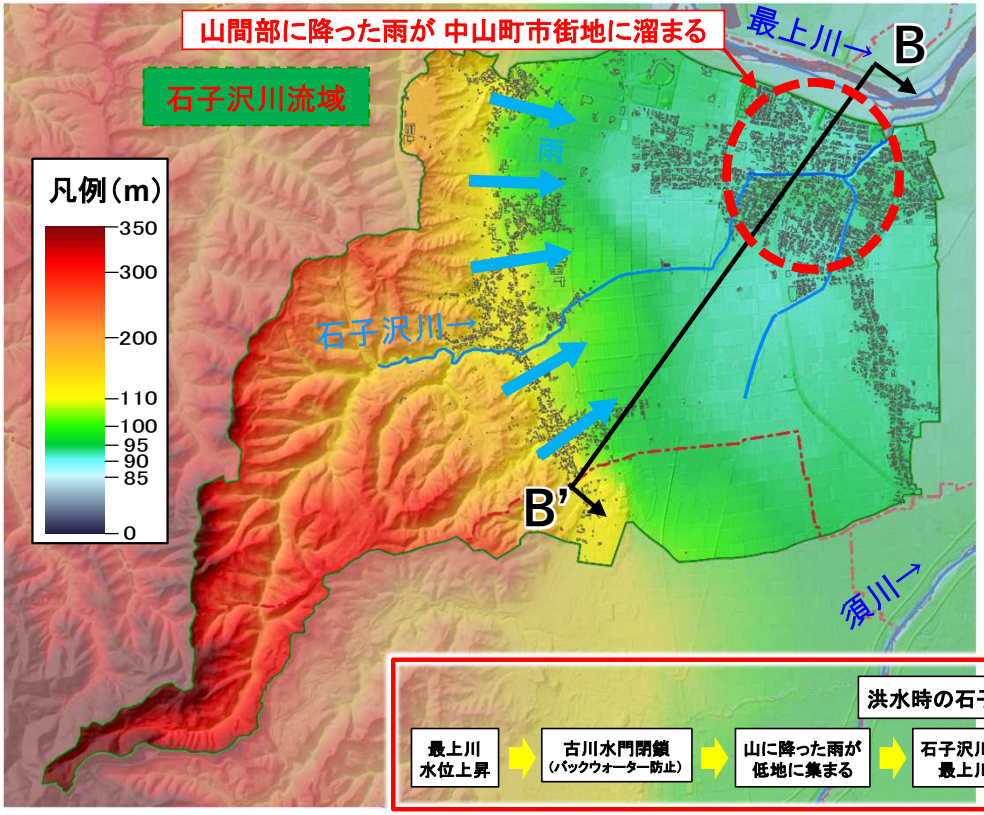
特定都市河川流域の概要

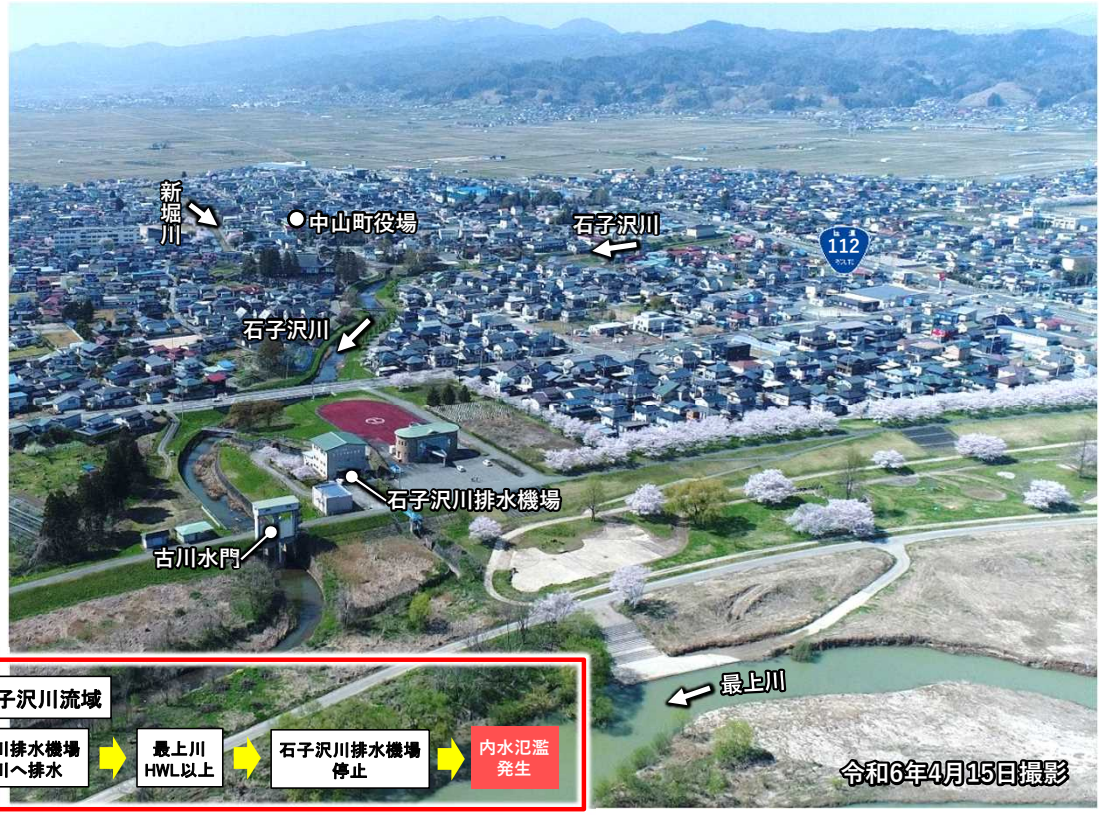
計画区域：石子沢川流域（16．6km^2 ）
対象河川：最上川水系石子沢川・新堀川の2河川、流域内町数2（山辺町の一部、中山町の一部）



特定都市河川流域の現状と課題

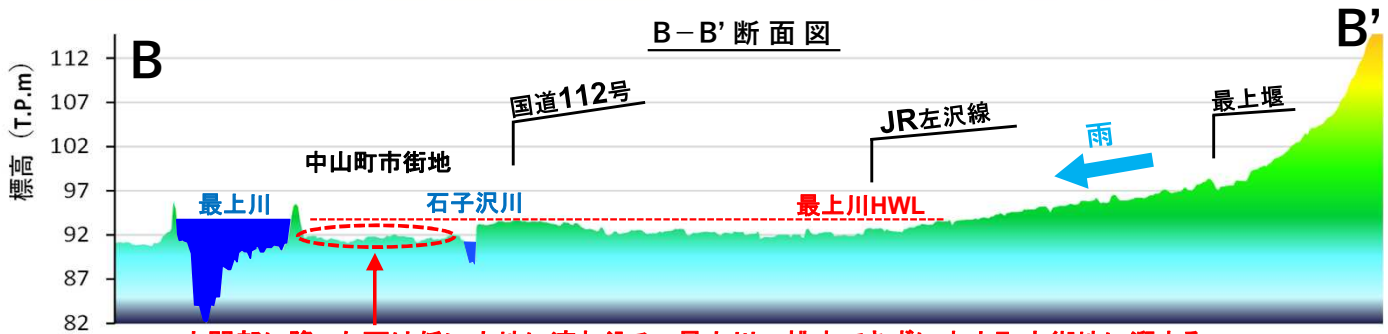
- 中山町市街地の地盤高は、最上川HWLよりも低い位置にあり、最上川と石子沢川のHWLは、4m程度の差がある。
- 最上川堤内地の低平地に市街地が形成されており、山地に降った雨が溜まりやすい。





洪水時の石子沢川流域

最上川 水位上昇 → 古川水門閉鎖（バックウォーター防止） → 山に降った雨が低地に集まる → 石子沢川排水機場 最上川へ排水 → 最上川 HWL以上 → 石子沢川排水機場 停止 → 内水氾濫 発生

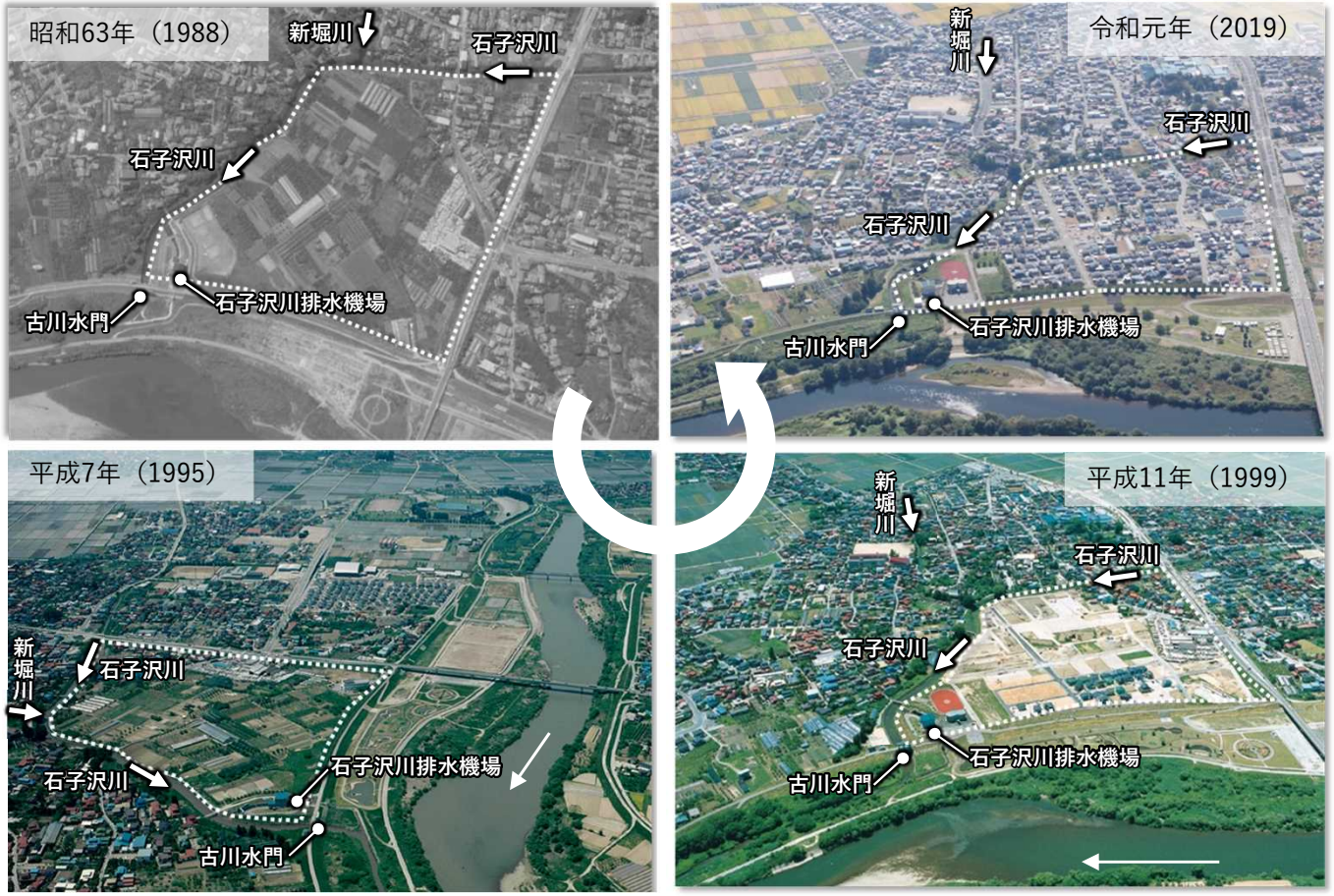


山間部に降った雨は低い土地に流れ込み、最上川へ排水できずに中山町市街地に溜まる

中山町（あおば地区）の開発状況と石子沢川の改修事業

- 昭和42年8月の羽越水害を契機として、昭和47年に下流の一部区間(1,200m)が直轄編入され、古川水門や石子沢川排水機場整備及び排水能力の増強(5→8m3/s)など、最上川と一体的な河川改修を進めてきた。
- 近年において、石子沢川下流域では、低平地への宅地開発が進展したため、たびたび内水被害が発生している。

■石子沢川の改修事業
昭和47年：古川水門　→　昭和56年：直轄改修事業　→　昭和61年：石子沢川排水機場　→　平成22年：石子沢排水機場増強（排水能力 5→8m3/s）

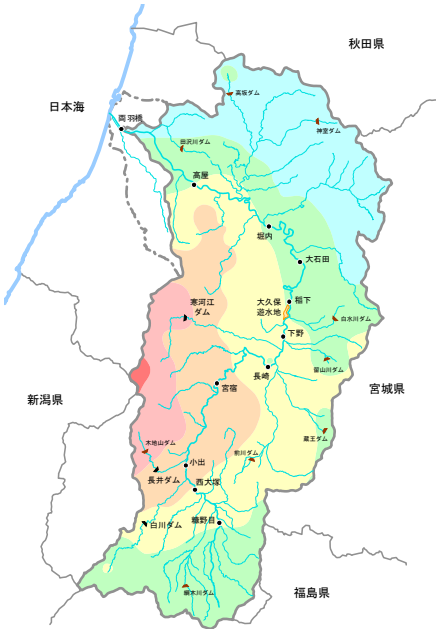


中山町あおば地区周辺の開発状況

最上川における近年の洪水

- 最上川水系の近年洪水の降雨分布は地域的に偏りが大きく、上流型、中流型、下流型など　地域ごとに洪水の形態が異なる。

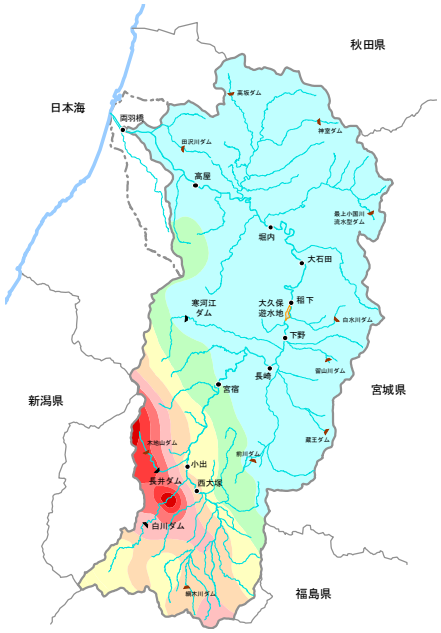
令和2年7月洪水
R2.7洪水[中流型]　気象要因：梅雨前線





最上川の増水による家屋浸水状況
（新庄市畑地区）

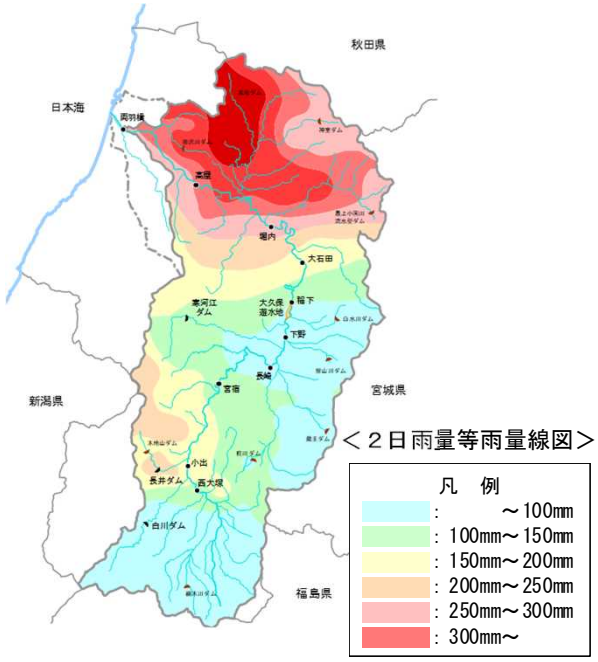
令和4年8月洪水
R4.8洪水[上流型]　気象要因：前線・低気圧





最上川の増水による家屋浸水状況
（大江町百目木地区）

令和6年7月洪水
R6.7洪水[下流型]　気象要因：前線





最上川の増水による家屋浸水状況
（戸沢村蔵岡地区）

特定都市河川流域の浸水被害の概要

国土交通省
山形河川国道事務所

- 近年において、石子沢川下流域では、低平地への宅地開発が進展したため、たびたび内水被害が発生。
- 近年最大の被害は、令和2年7月豪雨による被害で、浸水面積約27ha、被災戸数（床上、床下の合計）139戸に及んだ。

■主要洪水



平成14年7月洪水
降雨量：124mm※4，農地浸水等：12ha※2
床上浸水：0戸，床下浸水：0戸





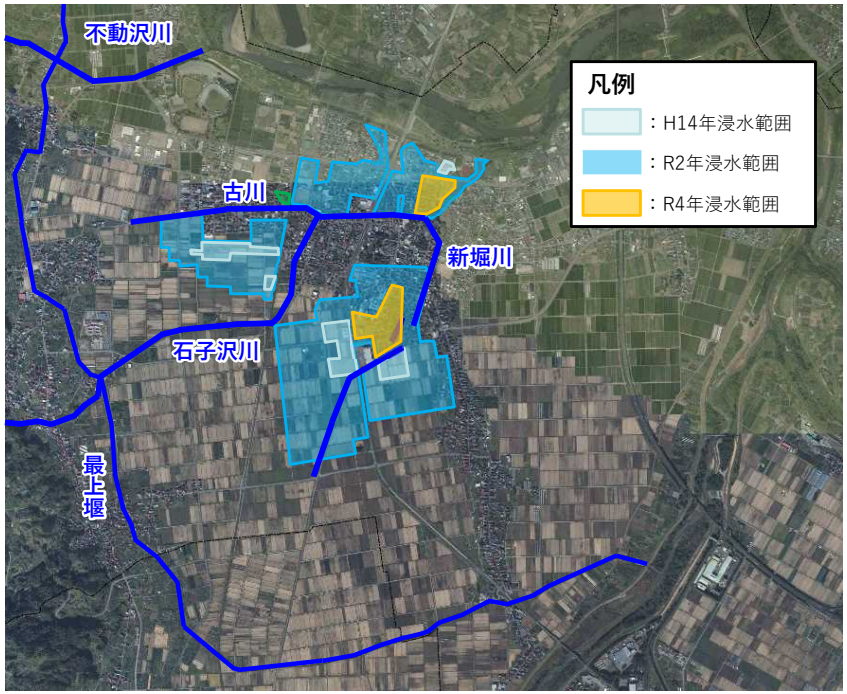
令和2年7月洪水 外水氾濫（支川）あり
降雨量：135mm※4，農地浸水等：54.7ha※1，床上浸水：17戸※1，床下浸水：122戸※1



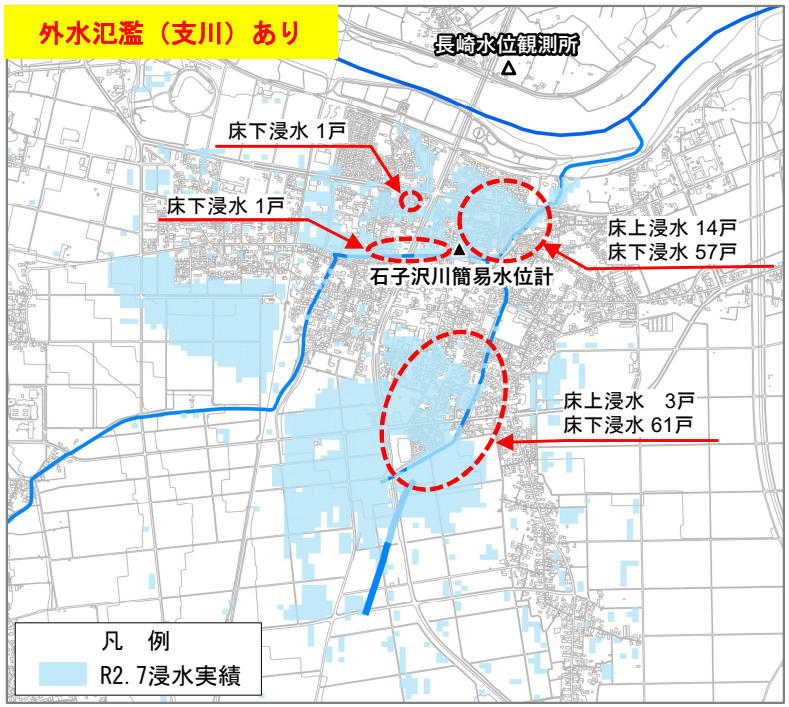
令和4年8月洪水
降雨量：87mm※4，農地浸水等：11.1ha※2
床上浸水：0戸，床下浸水：0戸

出典　※1：中山町地域防災計画（令和4年3月），24時間雨量、※2：空中写真から判断される内水域を地理院地図で計測、※3：水害統計、※4：長崎雨量観測所，24時間雨量

石子沢川流域の過去の浸水状況



令和2年7月28日洪水の浸水状況



中山町の被害状況

床上浸水17戸
床下浸水 122戸
農地浸水等 54.7ha

最上川の長崎水位観測所では、28 日18時30 分に計画高水位を超える16.22mの水位を記録し、観測史上第１位の水位となった。町では、町内全域を対象とした避難指示を発令し、住民800 名余りが指定避難所等へ避難した。石子沢川などの河川及び排水路が増水氾濫し、内水による建物の浸水被害、道路冠水及び農地・農作物の冠浸水が発生した。豊田地区では、道路が山から流れ出る雨水の川と化し、土砂崩れが複数発生し、山間にある作業小屋の倒壊が発生した。

出典：中山町地域防災計画（令和4年3月）

特定都市河川流域の概要（令和2年7月洪水浸水被害）

国土交通省
山形河川国道事務所

- 石子沢川は最上川に接続しており、最上川の水位が高くなるとバックウォーターを防ぐため水門を閉め、石子沢排水機場により最上川への排水を行っている。最上川への排水制限があることで、度々内水氾濫が発生している。
- 山形県の河川整備計画に位置付けられている整備は完了しており、内水対策が必要。

古川水門



石子沢川排水機場



雨 雨 雨 雨 雨 雨

新堀川

中山町役場

112

県管理区間

直轄管理区間

石子沢川

石子沢川排水機場

ポンプで排水
※最上川の水位がHWL超過で排水停止

古川水門
最上川の水位上昇で
水門閉扉

最上川

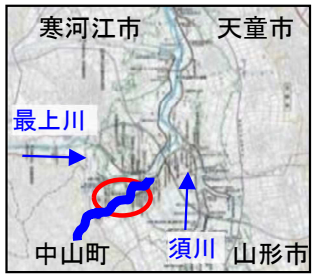
令和6年4月15日撮影

：R2.7浸水範囲

特定都市河川指定までの経緯（石子沢川流域治水勉強会）

○令和2年7月豪雨等の近年洪水及び気候変動に伴い高まる水害リスクを踏まえ、石子沢川流域における**中山町・山形県・国が連携した**流域治水対策等の取組について検討等を行う石子沢川流域治水勉強会を令和3年12月に設立し、開催してきた。

令和2年7月豪雨における浸水状況











第1回(R3.12.13)

■目標

H18石子沢川総合治水対策実施状況
最上川流域治水プロジェクト取組メニュー
石子沢川流域の特徴・被害形態
↓
中山町防災まちづくりと連携した各種取組の方向性の検討
↓
新たな取組による石子沢川流域の治水安全度向上

■開催状況



第2回(R4.3.15)

■勉強会の内容
①流域治水メニューと進捗状況の確認
②補助制度・他流域の事例共有
③避難確保計画の概要・策定状況の確認
④リスクの分析評価と防災指針の策定について

■開催状況



第3回(R4.8.29)

■勉強会の内容
①中山町流域治水メニューの進捗確認
②多段階浸水図（内水氾濫）の作成について
③特定都市河川制度について　等

■開催状況



先例地視察　福島県釈迦堂川等(R4.10.27)

■勉強会の内容
①流域治水の取組現地視察（公園改修による雨水貯留施設など）
②特定都市河川に関する意見交換（郡山市、福島県、福島河国）

第4回(R4.12.21)

■勉強会の内容
①特定都市河川指定時期・検討体制・スケジュール等の確認
②石子沢川流域における砂防事業実施状況

■開催状況



第5回(R5.3.15)

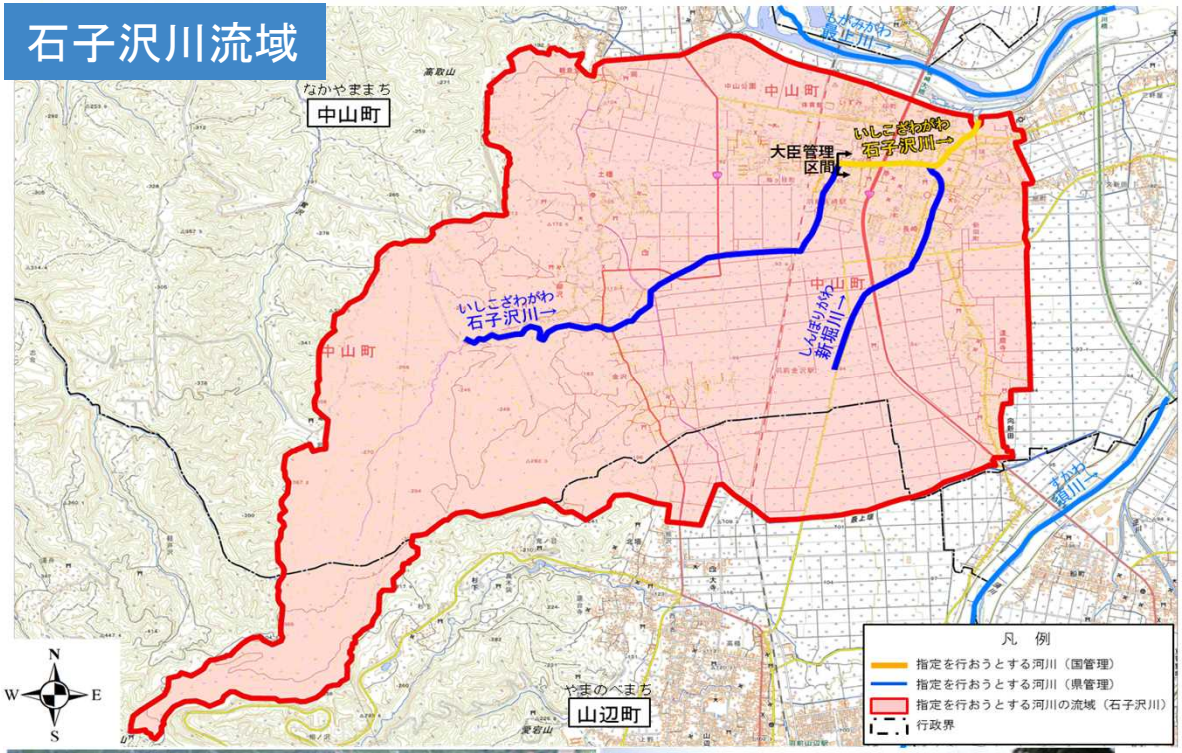
■勉強会の内容
①石子沢流域治水勉強会の経緯と成果について
②「特定都市河川」の制度活用を視野に入れた流域治水の取り組みについて
③石子沢流域における水害リスク情報の充実に向けた取り組み

特定都市河川指定、流域水害対策計画策定までの経緯

国土交通省
山形河川国道事務所

○ 法的枠組みを活用した流域治水を推進するため、**令和6年3月5日に最上川水系石子沢川等を特定都市河川に指定**。
○ **令和6年4月24日流域水害対策協議会（発足会）**を開催。
○ **令和7年3月26日**の第3回協議会において、**「石子沢川流域水害対策計画」を策定**。

石子沢川流域







これまでの経緯

令和３年12月13日　石子沢川流域治水勉強会　設立
これまでの度重なる浸水被害を踏まえ、流域治水の推進を図るため、石子沢川流域治水勉強会を設立し、石子沢川における特定都市河川指定に向けた取り組みについて議論を開始

↓

令和５年７月31日　第8回最上川水系流域治水協議会
第8回最上川水系流域治水協議会において、石子沢川を先行して、令和5年度内の特定都市河川に指定し、他河川のモデルとなるよう流域治水の取組を進めていくことを、参加した市町村長・各機関から同意を得て手続きを開始

↓

令和６年１月17日～２月７日　法定意見聴取を実施
特定都市河川指定に係る法定意見聴取開始
国土交通大臣⇒県知事・町長

↓

令和６年３月５日　指定
特定都市河川・流域の指定

↓

令和６年４月24日
石子沢川流域水害対策協議会の設置

↓

令和７年２月21日
第２回　石子沢川流域水害対策協議会を開催
「石子沢川流域水害対策計画（素案）」策定

↓

令和７年２月25日～３月11日
パブリックコメント、住民説明会の実施

↓

令和７年３月26日
第３回　石子沢川流域水害対策協議会を開催
「石子沢川流域水害対策」策定

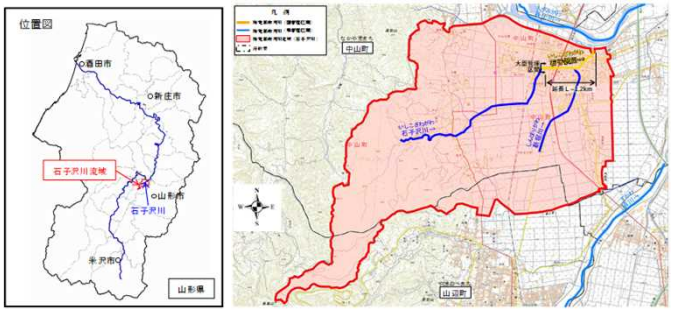
石子沢川流域水害対策計画の概要

国土交通省
山形河川国道事務所

〇石子沢流域水害対策計画は4つの柱（①氾濫をできるだけ防ぐ･減らすための対策②被害対象を減少させるための対策③被害の軽減、早期復旧･復興のための対策④流域管理のデジタル化・見える化）で構成
〇石子沢川流域水害対策は、4つの対策が連携・組み合わさることで、あらゆる関係者が取組の効果が実感でき、施策の更なるベストミックスが図られている。

計画期間と対象流域

◇計画期間：概ね10年
◇計画区域：石子沢川流域（16.6km²）
◇対象河川：最上川水系石子沢川
　　最上川水系新堀川
◇流域内町数：２町（中山町・山辺町の一部）
◇計画対象降雨：令和2年7月洪水（135mm/24h）

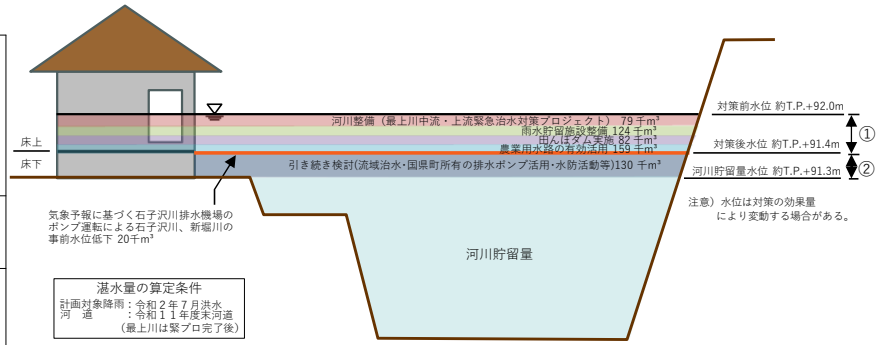


浸水被害対策の目標の考え方

目標：流域の地形・施設などを最大限に活用し、最上川の河川整備・公共施設再配置に伴う雨水貯留施設・水田貯留・農業用水路活用・排水施設活用などにより、令和2年7月洪水に対して家屋浸水を概ね解消（床上浸水は解消）し、浸水時間の早期解消を目指す。

対策内容

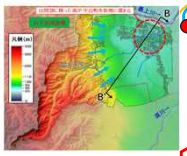
①	・田んぼダム ・雨水貯留施設整備 ・農業用水路の有効活用 ・気象予報に基づく石子沢川排水機場のポンプ運転による石子沢川、新堀川の事前水位低下 ・河川整備（最上川中流・上流緊急治水プロジェクト）
②	・引き続き検討（流域治水・国県町所有の排水ポンプ活用･水防活動等）
ソフト対策	・防災意識向上(マイ･タイムライン講習会、防災教育、自主防災会の研修や訓練) ・洪水情報(雨量･水位･避難情報等)の発信　等

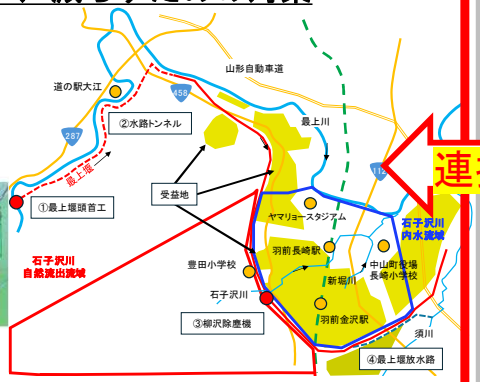


①氾濫をできるだけ防ぐ･減らすための対策

＜河川整備等に関する事項＞
・最上川緊急治水対策プロジェクト
・河道内堆積土砂の撤去
＜農業分野における取り組み＞
・田んぼダム、農業用水路の有効活用

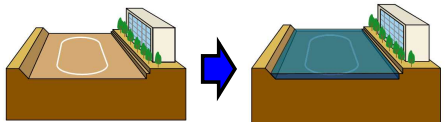

田んぼダム（排水桝に調整板を設置）

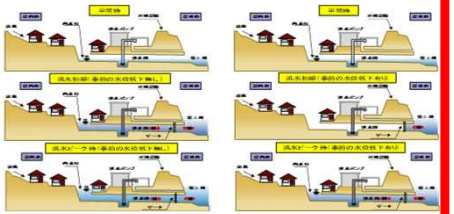

山からの雨水流出を水路で受ける



農業用水路（最上堰）の有効活用

＜既存施設の運用改善等による対策＞
・公共施設再配置に伴う雨水貯留浸透施設整備、排水機場の有効活用、貯留機能保全区域検討　等


雨水貯留浸透施設整備


石子沢川･新堀川の事前水位低下

連携

②被害対象を減少させるための対策

＜土地の利用に関する事項＞
・災害リスクを考慮した立地適正化計画の修正・防災指針の作成（土地利用規制、居住誘導など）リスクの低いエリアへの誘導や住まい方の工夫



中山町の立地適正化計画

連携

③被害の軽減、早期復旧･復興のための対策

＜その他浸水被害の防止･軽減＞
・切れ目のない防災教育、マイ・タイムライン講習会の実施、自主防災組織の研修や訓練
＜浸水被害が発生した場合における被害の拡大抑制対策＞
・浸水センサの活用、排水ポンプ車等の活用、垂直避難拠点整備　等

連携

④流域管理のデジタル化・見える化

＜安全安心につながる流域対策ＤＸの推進＞
・ＬＩＮＥ等を活用した防災情報の提供、情報集約システム　等



防災情報の提供

石子沢川流域情報集約システム

＜新しい地方経済・生活環境創生交付金等の活用＞
・デジタル技術を活用した地域の課題解決や魅力向上に資する取組を支援。

＜流域の恵みの見える化対策＞
・石子沢川流域の水の恵みなど活用等の推進　等



石子沢流域水害対策計画の更なる推進【令和7年度の取組】①

- 令和7年3月に策定した「石子沢川流域水害対策計画の推進」および「貯留保全区域指定」にむけての、**国・県・町の連携会議**を開催。
  流域水害対策計画の実行組織案を作成し、貯留機能保全区域指定における課題、それぞれの役割、指定までのスケジュールを確認。
- 中山町が今年度より全国初で創設した雨水浸透阻害行為対策工事の補助金について、一定以上の開発を行う開発行為者が雨水貯留浸透施設の設置を行うことが決定し、**全国初で創設した雨水阻害対策支援補助金が令和7年7月に活用**
- 地域では、自主防災組織の研修等で流域水害対策計画を取り上げ、地域全体で知識を深めている。



石子沢川流域水害対策計画の推進・貯留機能保全区域指定にむけての国県町の連携会議



山形河川国道事務所による石子沢川流域水害対策計画についての講演

令和7年度中山町主要事業（広報なかやまより引用）

施策 令和7年度に重点的に実施する主要事業

町では、令和３年度から令和12年度までを計画期間とする「第６次中山町総合発展計画」に沿って町政を経営しています。その中で掲げる６つの施策の柱ごとに、今年度の主要事業をお知らせします。

安心して生活できる子育てと福祉のまちづくり

【新規】保育園・幼稚園における給食費の無償化
【新規】１か月児健診および５歳児健診の実施
【新規】高齢者帯状疱疹ワクチン接種への費用助成
【新規】妊婦歯科健診の実施
【新規】町独自の上乗せによる保育料の段階的無償化

活気と交流を生み出す産業が成長するまちづくり

【新規】就農希望者を受け入れる基盤体制を確立するため、新規就農支援チームの設立
【継続】国・県と連携したりんごやすももの団地化支援
【継続】ひまわりや紅花栽培など、景観形成作物の植栽促進
【継続】意欲ある新規事業者に対する開業支援
【継続】10月12日「元祖“全国”芋煮会」および７月21日「全国かぶと虫相撲大会」の開催支援

自然環境と共生した安全に生活できるまちづくり

【新規】消防団員活動服など消防用資機材の更新
【新規】垂直避難拠点の整備
【新規】特定都市河川指定流域での雨水浸透阻害行為に対する雨水阻害対策支援補助金の創設
【継続】町民や自主防災組織会員に対する防災士資格取得への支援
【継続】幼保小中連携の切れ目ない防災教育

（上限百万円）

全国初の創設
令和7年7月
活用

健康で心豊かな人を育むまちづくり

【新規】日本体育大学集団行動の誘致
【新規】中山町教育振興計画の策定
【継続】学校給食費および他市町の学校への通学者の給食費無償化
【継続】９月15日「第４回中山すももウォーキング」の開催支援
【継続】旧柏倉家住宅敷地周辺の板塀復元工事など修繕工事の実施

利便性が高く快適に生活できるまちづくり

【新規】高齢者を対象としたタクシー利用助成業務委託
【新規】羽前長崎駅西口周辺施設の整備
【新規】木造住宅除却支援事業補助金の創設
【継続】良質な住宅環境整備に向けた住宅改修などへの支援
【継続】空き家バンクの活用および取引仲介などへの支援

人と人とがつながる協働によるまちづくり

【新規】公共施設再配置計画基本構想の策定
【新規】第６次中山町総合発展計画後期計画の策定
【新規】中山町町民企画事業補助金の創設
【新規】デジタル分野や観光分野での地域活性化起業人の活用
【継続】スマホよろず相談など町民の情報格差（デジタルデバイド）への支援

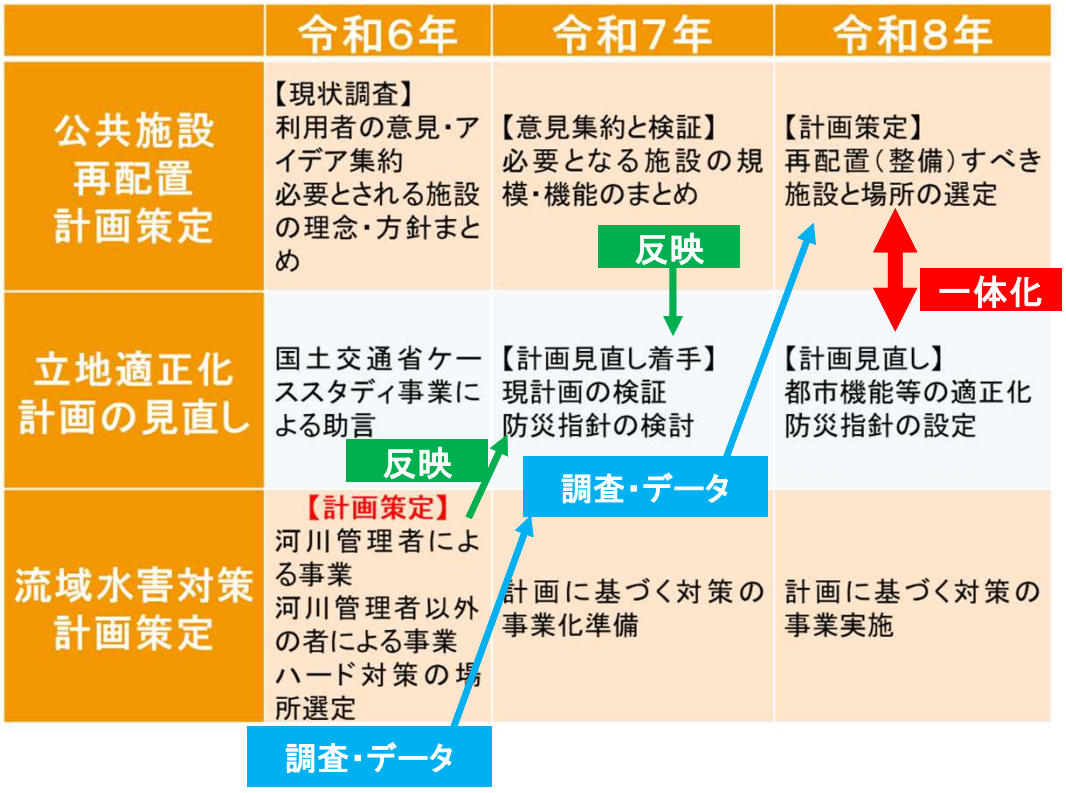
石子沢流域水害対策計画の更なる推進【令和7年度の取組】②

①氾濫をできるだけ防ぐ･減らすための対策×②被害対象を減少させるための対策×③被害の軽減､早期復旧･復興のための対策の連携

○近年の､「少子高齢・人口減少社会」「公共施設の老朽化」「急激な気候変動と災害の増」「デジタル技術の進展」等の社会的背景を受け、真に必要となる行政サービスの継続と安全確保の連携が求められている。

○山形県中山町では、「流域水害対策計画」と「公共施設再配置」「災害リスクを考慮した立地適正化計画・防災指針の作成（土地利用規制、居住誘導など）リスクの低いエリアへの誘導や住まい方の工夫」が相互に連携している。

○令和7年8月には中山町が町民と考えるワークショップを開催し、公共施設再配置事業に反映するために町の課題や改善策の話しあいを実施。



公共施設再配置と関係施策の連携





公共施設再配置にむけてのワークショップ開催状況



山形県中山町
流域治水の
実践的な取組み

令和７年９月１７日

中山町の概要

【面積】31.15㎢ 【人口】 10,343人【世帯数 】3,773世帯（特老含む）
＊令和７年４月末住民基本台帳

【市区町村別昼夜間人口比率】全国３位（令和２年国勢調査）







最上川と須川の合流点

中山町の概要

中山町は山形県の中央部、奥羽山脈と出羽丘陵に囲まれた村山盆地にあります。県都山形市の北、天童市の西、寒河江市の南に位置し、村山盆地の中央部に位置します。町の北を山形県を代表する母なる川「最上川」が流れています。

最上川は地域に暮らす人々の生活にも大きな影響を与え、北前船が往来した時代から最上川を利用しての舟運が盛んに行われ、各地に京都の文化が色濃く残っています。

芋煮会が始まったとされる最上川

芋煮会発祥の地



芋煮会
発祥地
中山町

中山町のハザードマップ＋

03



沢田排水樋門
（三軒屋排水樋管）

排水不能

古川水門
石子沢川排水機場

8ｔ/s 排水能力

最上堰放水路
（梨ノ木第一排水樋管）

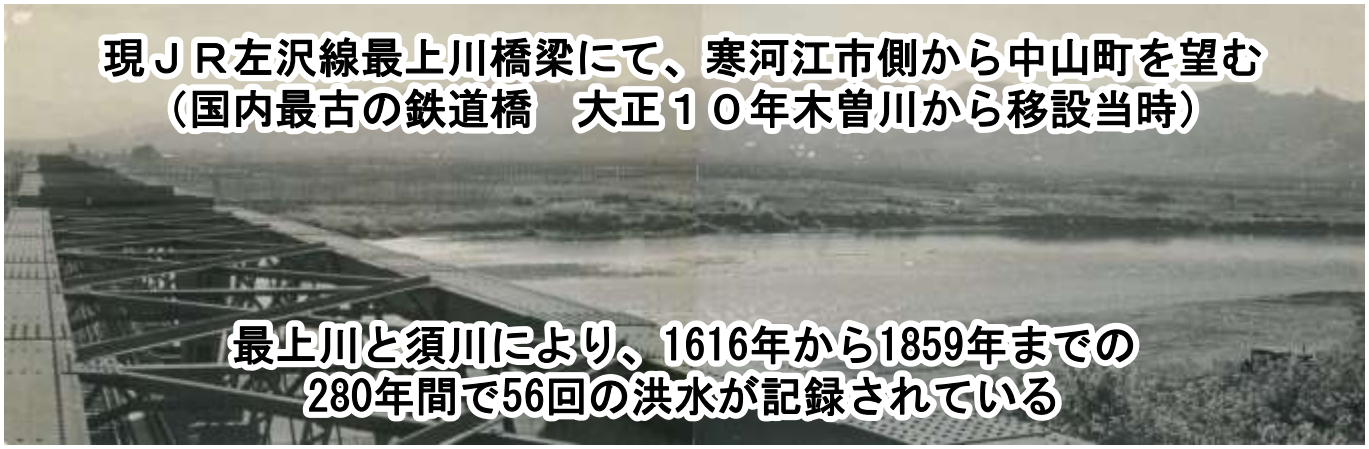
排水不能

住民の７割以上が浸水想定区域内に居住

芋煮会
発祥地
中山町

最上川・石子沢川の整備

04





年　月	事　　項
昭和21～23年	最上川長崎築堤　暫定堤防
昭和33～37年	古川水門より上流堤防完成
昭和42年8月	羽越水害（長崎水位観測所　15.80m）
昭和43～45年	古川水門完成
昭和46～56年	石子沢川河道改修
昭和51～52年	古川水門より下流堤防完成
昭和61年	石子沢川排水機場完成（5.0㎥/s）
平成9～10年	最上川東村山地区河川防災ステーション完成中山町防災センター完成
平成22年7月	石子沢川排水機場ポンプ増設（3.0㎥/s）

芋煮会
発祥地
中山町

近年の大雨による災害

令和元年台風１９号（東日本台風）

避難勧告（土砂災害警戒）・避難勧告（洪水）
避難所２（避難者46人）

令和２年７月豪雨

町全域に避難指示（土砂災害・洪水）
⇒　緊急安全確保
避難所２（避難者872人）・福祉避難所２
床上浸水17・床下浸水104
町道崩壊等14・農道崩壊等23
最上川最高水位16.22m（計画高水位15.96m）
※　長崎水位観測所

令和４年８月豪雨

浸水想定域世帯に避難指示（洪水）
⇒　緊急安全確保（洪水）
避難所１（66人）・福祉避難所１
最上川最高水位15.66m（計画高水位15.96m）
※　長崎水位観測所

【令和２年７月豪雨】
土砂災害から洪水へ　全域の災害に



石子沢川氾濫状況（柳沢地区）



道路冠水状況（あおば地区）

【令和４年８月豪雨】
水防団待機水位（午前０時）から
緊急安全確保発令（午前５時）まで５時間



最上川（中山町防災センター）



道路冠水状況（県道・町道）

芋煮会
発祥地
中山町

特定都市河川指定まで

石子沢川流域治水勉強会

第1回（R3.12.13）

■開催状況



■目標

H18石子沢川総合治水対策実施状況
最上川流域治水プロジェクト取組メニュー
石子沢川流域の特徴・被害形態

↓

中山町防災まちづくりと連携した各種取組の方向性の検討

↓

新たな取組による石子沢川流域の治水安全度向上

第2回（R4.3.15）

■開催状況



■勉強会の内容

①流域治水メニューと進捗状況の確認
②補助制度・他流域の事例共有
③避難確保計画の概要・策定状況の確認
④リスクの分析評価と防災指針の策定について

第3回（R4.8.29）

■開催状況



■勉強会の内容

①中山町流域治水メニューの進捗確認
②多段階浸水図（内水氾濫）の作成について
③特定都市河川制度について　等

中山町議会の取組み

国土交通省へ町・議会連名で要望
（R3.6.19）





国土交通省へ町・議会連名で要望
（R4.6.14）

国土交通省東北地方整局山形河川国道事務所作成資料より

特定都市河川指定まで

石子沢川流域治水勉強会

先例地視察　福島県釈迦堂川等（R4.10.27）

■勉強会の内容

①流域治水の取組現地視察（公園改修による雨水貯留施設など）
②特定都市河川に関する意見交換（郡山市、福島県、福島河国）

■開催状況



第4回（R4.12.21）

■勉強会の内容

①特定都市河川指定時期・検討体制・スケジュール等の確認
②石子沢川流域における砂防事業実施状況

■開催状況



第5回（R5.3.16）

■勉強会の内容

①石子沢流域治水勉強会の経緯と成果について
②「特定都市河川」の制度活用を視野に入れた流域治水の取り組みについて
③石子沢流域における水害リスク情報の充実に向けた取り組み

■開催状況



中山町議会の取組み

議員行政視察（R4.11.15）
佐賀県大町町（六角川）
内水対策に関する取組みについて





国土交通省へ町・議会連名で要望
（R5.6.13）

国土交通省東北地方整局山形河川国道事務所作成資料より

芋煮会
発祥地
中山町

石子沢川流域水害対策計画策定まで

08

石子沢川流域水害対策協議会

制度理解の深化

令和6年1月17日～2月7日　法定意見聴取を実施

特定都市河川指定に係る法定意見聴取開始
国土交通大臣　⇒　県知事・町長

令和6年3月5日　指定

特定都市河川・流域の指定

発足会（R6.4.24）

■開催概要

流域水害対策計画に定める事項や浸水被害対策の基本的な考え方、計画策定に向けた今後のスケジュール等について事務局より説明し、意見交換を行った。

■開催状況



第2回（R7.2.21）

■開催概要

実務者会議を経てとりまとめた計画（素案）内容について説明を行い、「石子沢川流域水害対策計画（素案）」を了承。今後、パブリックコメントを実施し、地域からの意見を踏まえて令和7年3月中の計画策定を目指すことを確認した。

■開催状況



中山町議会の取組み

治山・治水特別委員会（R5.11.9）
石子沢川流域における治水対策について

治山・治水特別委員会（R5.12.8）
石子沢川流域における総合的な治水対策の進め方について

治山・治水特別委員会行政視察（R6.2.5）
茨城県大子町
役場庁舎建設事業について
治山・治水特別委員会行政視察（R6.2.6）
宮城県松島町（吉田川、高城川）
風水害時の被災者支援について





治山・治水特別委員会行政視察（R6.9.19）
宮城県丸森町（阿武隈川ほか）
令和元年東日本台風からの復旧・復興状況について
宮城県南部復興事務所
令和元年東日本台風被害における河川・砂防・道路復旧事業について

国土交通省東北地方整局山形河川国道事務所作成資料より

石子沢川流域水害対策計画策定まで

石子沢川流域水害対策協議会

実務者会議（R7.2.3）　■開催状況

■開催概要

実務者会議参加者：
中山町・山辺町・山形県（河川課・農村整備課・森林ノミクス課・村山総合支庁河川砂防課）・最上堰土地改良区・山形地方気象台・山形河川国道事務所



令和7年2月25日～3月11日　パブリックコメント及び住民説明会を実施

●パブリックコメント

記者発表・募集案内（国土交通省・中山町・山辺町のWEBサイト並びに資料閲覧場所・意見書投函箱設置）

●住民説明会

①中山町中央公民館（R7.3.9）30人、②中山町保健福祉センター（R7.3.10）15人

第3回（R7.3.26）　■開催状況

■開催概要

計画（素案）に対するパブリックコメントの意見等を踏まえ見直した「石子沢川流域水害対策計画」を了承いただき、計画が策定された。

計画策定を受け、今後の流域治水の推進について、協議会委員から意気込み等メッセージをいただいた。



中山町議会の取組み

治山・治水特別委員会（R7.2.27）
石子沢川流域水害対策計画（案）について
＊　パブリックコメント内容の説明

計画理解の深化

治山・治水特別委員会（R7.3.11）
石子沢川流域水害対策計画（案）について
＊　パブリックコメント等を踏まえ見直した計画案の説明



石子沢川水害の対策計画を策定
中山で協議会

本県で初めて特定都市河川に指定された最上川水系・石子沢川（中山町）などの流域水害対策を検討する協議会は26日、対策計画を策定した＝写真。流域関係者が一体となり、田んぼダムの推進や雨水貯留浸透施設の整備、住民の防災力向上などハード、ソフト両面で取り組む。今後、計画の実行組織を立ち上げる予定。

国や県、流域の中山、山辺両町などによる協議会の第3回会合が同日、中山町中央公民館で開かれた。計画期間はおおむね10年。中山町内で住宅など139戸が床上・床下浸水した2020年7月豪雨を計画対象降雨とし、家屋浸水の大部分の解消や浸水時間の早期解消を目指す。

具体的には▽国や県による河川整備▽中山町の公共施設再配置に伴う雨水貯留浸透施設の整備▽土地利用の工夫▽切れ目のない防災教育―などの対策を講じるとした。（瀬野麻衣）

国土交通省東北地方整局山形河川国道事務所作成資料より

流域治水の実践的取組み

石子沢川流域水害対策計画※のポイント

もがみがわ緊急治水対策プロジェクト　流域治水

計画期間と対象流域

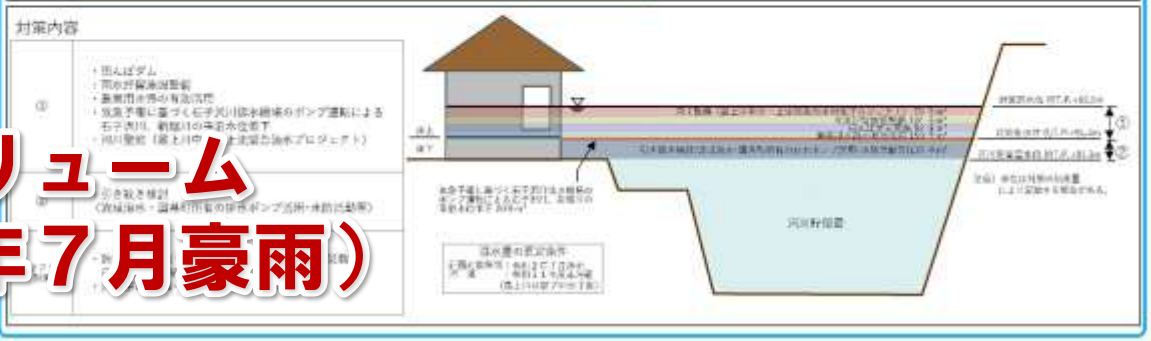
◇計画期間：概ね10年
◇計画区域：石子沢川流域（16.6km²）
◇対象河川：最上川水系石子沢川
　　最上川水系新堀川
◇流域内町数：２町（中山町・山辺町の一部）
◇計画対象降雨：令和2年7月洪水（135mm/24h）



対策前の氾濫ボリューム
５９４千㎥（令和２年７月豪雨）

浸水被害対策の目標の考え方

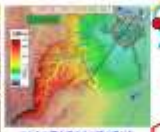
目標：流域の地形・施設などを最大限に活用し、最上川の河川整備・公共施設再配置に伴う雨水貯留施設・水田貯留・農業用水路活用・排水施設活用などにより、令和2年7月洪水に対して家屋浸水を概ね解消（床上浸水は解消）し、浸水時間の早期解消を目指す。



①氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策

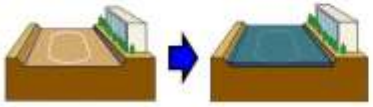
＜河川整備等に関する事項＞
・最上川緊急治水対策プロジェクト
・河道内堆積土砂の撤去
＜農業分野における取り組み＞
・田んぼダム、農業用水路の有効活用

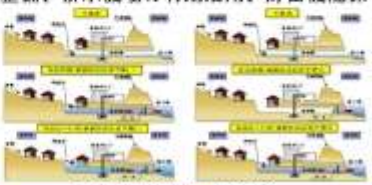

田んぼダム（排水桝に調整板を設置）




農業用水路（最上堰）の有効活用

＜既存施設の運用改善等による対策＞
・公共施設再配置に伴う雨水貯留浸透施設整備、排水機場の有効活用、貯留機能保全区域検討　等


雨水貯留浸透施設整備


石子沢川・新堀川の事前水位低下

②被害対象を減少させるための対策

＜土地の利用に関する事項＞
・災害リスクを考慮した立地適正化計画の修正・防災指針の作成（土地利用規制、居住誘導など）リスクの低いエリアへの誘導や住まい方の工夫

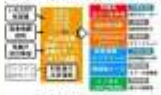

中山町の立地適正化計画

③被害の軽減、早期復旧・復興のための対策

＜その他浸水被害の防止・軽減＞
・切れ目のない防災教育、マイ・タイムライン講習会の実施、自主防災組織の研修や訓練
＜浸水被害が発生した場合における被害の拡大抑制対策＞
・浸水センサの活用、排水ポンプ車等の活用、垂直避難拠点整備　等

④流域管理のデジタル化・見える化

＜安全安心につながる流域対策ＤＸの推進＞
・ＬＩＮＥ等を活用した防災情報の提供、情報集約システム　等


防災情報の提供


石子沢川流域情報集約システム

＜新しい地方経済・生活環境創生交付金等の活用＞
・デジタル技術を活用した地域の課題解決や魅力向上に資する取組を支援。

＜流域の恵みの見える化対策＞
・石子沢川流域の水の恵みなど活用等の推進　等



国土交通省東北地方整局山形河川国道事務所作成資料より

氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策

公共施設再配置事業

1　社会的背景

①　少子高齢・人口減少社会　　無くなってしまう行政サービス
②　公共施設の老朽化　　必要となる新たな行政サービス
③　急激な気候変動と災害の増　　行政サービスの継続と安全確保
④　デジタル技術の進展　　官民共存・連携の進展

2　町特有の背景

①　第６次中山町総合発展計画における公共施設の再配置の取組みのなかで、「公共施設総合管理計画」「個別施設計画」を策定した

②　石子沢川等の特定都市河川指定による流域治水の取組みが始まる

→ **流域水害対策計画**
立地適正化計画
公共施設再配置

長寿命化を図る施設と更新を図る施設の整理がなされた
流域治水における再配置事業の役割＝雨水貯留施設

氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策 12

R7

公共施設再配置事業

公共施設機能 町民と考える

町がワークショップ、24日も



町の課題を深掘りし、改善策を話し合う町民ら＝中山町中央公民館

中山町は、役場庁舎など公共施設を再整備・再編する「公共施設再配置事業」の検討を進めている。町民が求める公共施設の機能などを探り、事業に反映しようとワークショップ「なぜなぜ大会議」を町中央公民館で開催。町民ら約40人が町の魅力発信不足や、買い物、医療を町外に頼っている現状など課題を深掘りし、改善策を考えながらまちづくりの在り方を考えた。24日も同館で開かれる。

再整備・再編向け 課題深掘り

同事業は人口減少や公共施設の老朽化、石子沢川などの特定都市河川指定による浸水の取り組み開始といったことを踏まえている。本年度中に公共施設再配置計画の基本構想を策定予定で、関係者でつくる審議会が検討を進めている。

その一方で町は昨年度、課題把握のため、東北芸術工科大に業務委託し、町民対象のグループインタビューを重ねてきた。その結果、課題を六つのテーマに集約。大会議では同大企画構想学科の田沢祐子講師や町職員をファシリテーターに、参加者がグループごとに意見を交わした。

「魅力が発信できていないのはなぜ？」をテーマに話し合ったグループは、町民の横のつながりが希薄化し、情報を共有できていないのが原因と指摘。「新公共施設にハブ的機能を備えさせてはどうか」と提案した。町は大会議で出た意見やアイデアを再配置事業のほか、第6次町総合発展計画の基本計画の見直しなどに反映させる。

大会議は3日に開かれた。町民や町内に勤務する人が対象で、24日の開催については上のQRコードから詳細の確認や参加申し込みができる。町総務広報課防災安全対策室は「町をより良くするアイデアをたくさん出してほしい」としている。問い合わせは同室☎023(662)4899。（園野麻衣）

山形新聞（令和７年３月１６日）



佐藤町長も参加



令和７年８月３日（日）



令和７年８月２４日（日）



住民や職員の合同によるＷＳ

氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策

特定都市河川流域で雨水浸透阻害行為を行う際には 流出抑制のため 許可が必要 です

山形県ホームページより

許可が必要な雨水浸透阻害行為とは、現在の土地に対し、地下に浸透しないで他の土地へ流出する雨水の量を増加させるおそれのある行為で、その面積が **1,000㎡以上** のものが該当します。

特定都市河川流域において雨水浸透阻害行為を行う場合、**山形県知事の許可**が必要となり、行為前の流出量より増加しないよう対策工事（雨水貯留浸透施設の設置）が義務付けられます。

対象となる雨水浸透阻害行為の例



宅地等に含まれる土地：宅地、池沼、水路、ため池、道路、鉄道、飛行場
宅地等以外の土地　：山地、林地、耕地、原野等（注：太陽光発電施設は宅地に該当）

過度な開発抑制とならないよう
行為者の対策工事への支援が必要

⇒　令和７年度予算において
雨水阻害浸透行為対策工事への補助金を創設

対策工事の例（雨水貯留・浸透施設）



特定都市河川浸水被害対策法に基づく雨水浸透阻害行為の許可申請手続きについては
雨水浸透阻害行為の許可申請の手引きをご覧ください。

https://www.pref.yamagata.jp/180006/tosikasen/usuisintousogai.html

氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策

中山町雨水浸透阻害行為に関する工事補助金

特定都市河川浸水被害対策法（以下「法」という。）に基づき指定された、特定都市河川流域のうち、中山町内で行われる「雨水浸透阻害行為に関する対策工事」への補助を行っています。

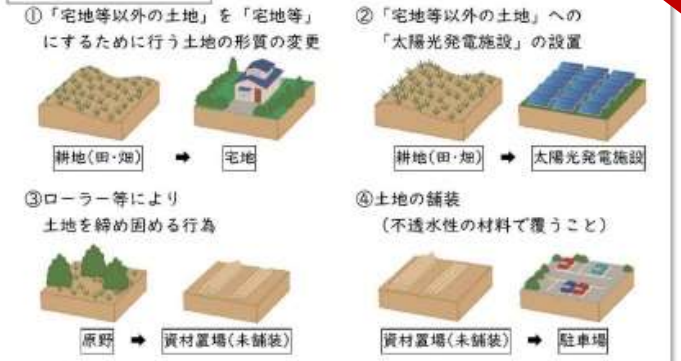
工事の着手前に補助金の申請が必要になりますので、事前に中山町総務広報課防災安全対策室へお問い合わせください。

【許可が必要な雨水浸透阻害行為とは?】

特定都市河川に指定された流域では、開発等の行為により土地から流出する雨水量を開発前（現状）より増加させるおそれのある行為＝雨水浸透阻害行為（面積1,000㎡以上）を行う場合は、知事の許可が必要になります。

許可にあたっては雨水浸水阻害行為分を補うため雨水貯留浸透施設の設置が必要になります。

雨水浸透阻害行為の例



※「宅地等」に含まれる土地：宅地、池沼、水路、ため池、道路
（太陽光発電施設は宅地に該当します）

※「宅地等以外の土地」：山地、林地、耕地（田・畑）、原野等

特定都市河川浸水被害対策法における雨水浸透阻害行為の許可申請の手引き（令和6年4月 山形県）より

【補助対象者】 山形県知事から雨水浸透阻害行為の許可を受けた者

【補助金額】 山形県知事が発出する雨水阻害行為許可通知書に記載された雨水浸
行為区域の面積1平方メートルあたり1,000円【上限100万円】

【補助金についてのお問い合わせ先】
中山町総務広報課防災安全対策室 TEL 023-662-4899
※ 申請書の書式データは中山町公式ホームページからダウンロードしてください。

【雨水浸透阻害行為の許可申請についてのお問い合わせ先】
山形県県土整備部河川課 TEL 023-630-2619

R7

補助金を創設し、１件交付決定

2025年度 新予算のポイント

水害被害最小化に力

垂直避難拠点、年度内供用へ

中山町の2025年度一般会計当初予算案の総額は59億5700万円で、24年度当初比5・7%増となった。引き続き、災害に強いまちづくりに力を入れる。現在整備中の垂直避難拠点は25年度内の供用開始を目指す。公共施設再配置計画基本構想の策定や立地適正化計画の改定を行い、まちづくりの観点からも水害の被害最小化を図る。

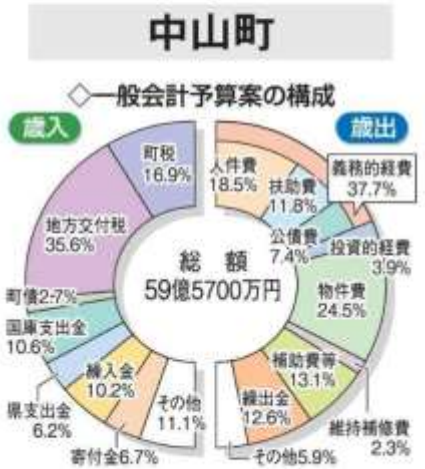
同町は令和に入り、大雨災害や浸水被害が多発している。国土交通省による須川の河道掘削で取り除いた土砂を活用した、盛り土による垂直避難拠点をひまわりグラウンド・ゴルフ場近くに整備中だ。自動車での避難を想定して敷地に砂利を敷くほか、照明や水場も設置し、災害時に利用できる体制を整える。

昨年3月、石子沢川が特定都市河川に指定され、流域内で一定規模以上の開発を行う場合、水害リスクを高めない対策が義務付けられた。町は開発行為のハードルを低減するため、開発行為者による雨水浸透阻害行為対策工事の補助金を創設する。上限は100万円を想定。こうした補助金は全国で初という。

18年度に策定した立地適正化計画は、災害リスクを踏まえた防災指針が明記されていない課題がある。今月下旬に策定予定の流域水害対策計画を反映させ、見直しに着手する。

公共施設再配置事業でも流域治水を考慮する。本年度実施した町民インタビューなどで集めた意見をまとめ、基本構想を策定する。総務省の地域活性化起業人制度を活用し、民間企業からDX（デジタルトランスフォーメーション）や観光分野にたけた2人を受け入れる。全庁的な業務効率化を推進し、「芋煮会発祥の地」を生かした交流人口や関係人口の拡大を図る。

スポーツ推進・健康づくり協定を結ぶ日本体育大の演技「集団行動」の公開を、約6年ぶりに実施する。（瀬野屋久）



主な事業

- ▽垂直避難拠点整備事業 2656万円
- ▽雨水阻害対策支援補助金の創設 100万円
- ▽立地適正化計画の策定事業 844万円
- ▽公共施設再配置計画基本構想の策定事業 1301万円

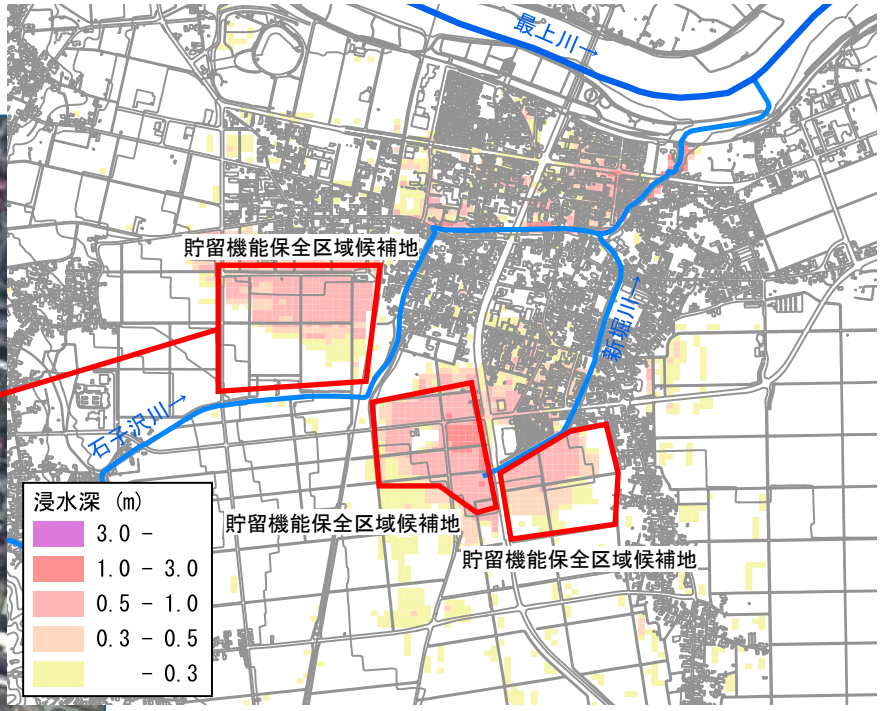


整備中の垂直避難拠点は堤防より1㍍以上高い盛り土。2025年度中の供用開始を目指す＝中山町（同町提供）

氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策

貯留機能保全区域の指定に向けた取組み







指定に向けた山形県への働きかけ
実行組織設立などに向けた連絡会議

氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策

石子沢川流域水害対策計画の推進・
貯留機能保全区域指定にむけての国県町の連携会議

R７



被害対象を減少させるための対策

災害リスクを考慮した立地適正化計画の修正・防災指針の作成

■　平成30年度に策定
　中山町都市計画マスタープランの一部として

■　内容
　居住誘導区域の設定、都市機能誘導区域･誘導施設の設定

■　令和２年９月から施行された「防災指針」制度に未対応
　居住の安全確保等の防災・減災対策の取組を推進するため、都市再生特別措置法の一部を改正し、立地適正化計画に「指針」を記載することを位置づけられたもの。

⇒　立地適正化計画においては災害リスクを踏まえて居住や都市機能を誘導する地域の設定を行い、区域内に浸水想定区域等の災害ハザードエリアが存する場合には適切な防災・減災対策を「防災指針」として位置付けることが必要。

R７

公共施設再配置と連携し、水災害リスク評価を踏まえた防災まちづくり目指す計画への見直しに着手

被害対象を減少させるための対策

災害リスクを考慮した立地適正化計画の修正・防災指針の作成

	令和6年	令和7年	令和8年
公共施設再配置計画策定	【現状調査】 利用者の意見・アイデア集約 必要とされる施設の理念・方針まとめ	【意見集約と検証】 必要となる施設の規模・機能のまとめ	【計画策定】 再配置（整備）すべき施設と場所の選定
立地適正化計画の見直し	国土交通省ケーススタディ事業による助言	【計画見直し着手】 現計画の検証 防災指針の検討	【計画見直し】 都市機能等の適正化 防災指針の設定
流域水害対策計画策定	【計画策定】 河川管理者による事業 河川管理者以外の者による事業 ハード対策の場所選定	計画に基づく対策の事業化準備	計画に基づく対策の事業実施

反映

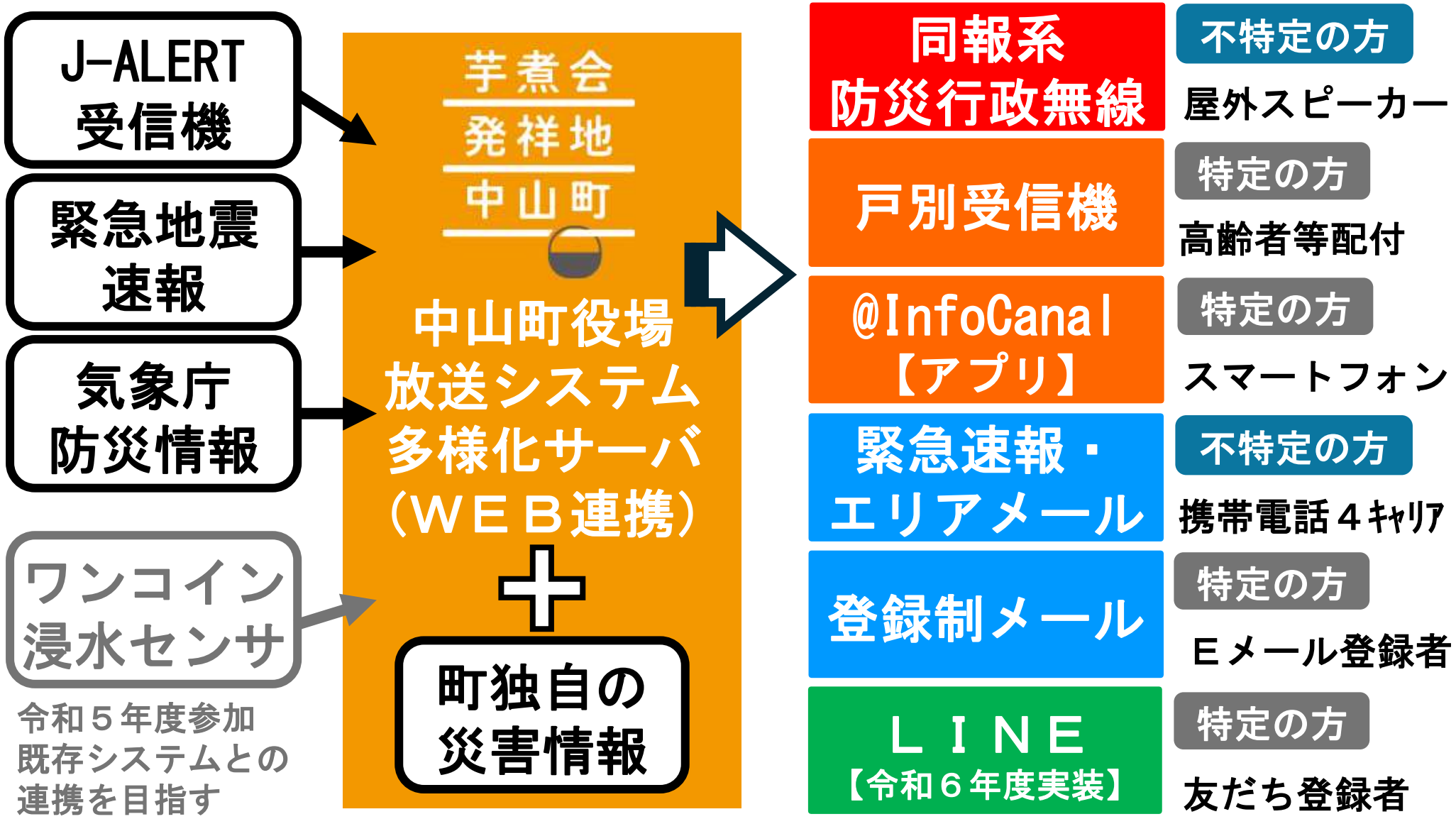
反映

調査・データ

調査・データ

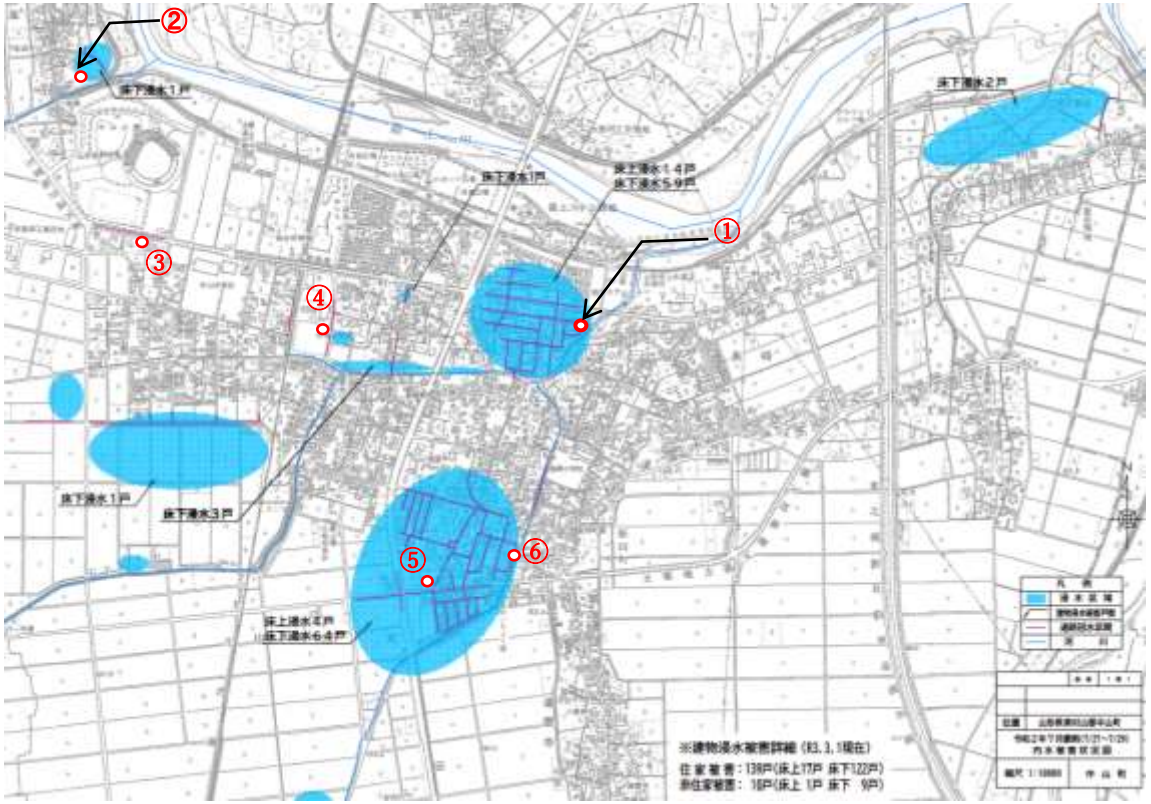
一体化

被害の軽減、早期復旧、復興のための対策



被害の軽減、早期復旧、復興のための対策

ワンコイン浸水センサ実証実験への参加



【目的】

・中山町はハザードマップにおいて山間部を除き、平地のほぼすべてが浸水想定区域に指定されている。

・令和2年7月豪雨では、最上川の水位上昇に伴う内水氾濫が発生し、床上床下浸水や道路冠水などの被害が発生した。

・浸水センサ設置により、浸水状況をリアルタイムで把握し、通行止め等の迅速な対応を行い、通行者の安全を確保する。

【実証実験】

・浸水センサを6箇所設置

※　1箇所あたり高さの異なる2個のセンサ設置（5～15cm）、降雪期撤去

・国土交通省の表示システムにより浸水状況をリアルタイムに可視化



センサ位置5、10cm



センサ位置5、10cm



センサ位置5、10cm



センサ位置5、15cm



センサ位置5、15cm



センサ位置5、10cm

芋煮会
発祥地
中山町

被害の軽減、早期復旧、復興のための対策 21

垂直避難拠点整備事業



垂直避難拠点整備事業　令和６年７月３日撮影

被害の軽減、早期復旧、復興のための対策

防災・減災の学び、情報を活かすための人材育成

R７



石子沢川流域水害対策計画が目指す水害防止について
国土交通省東北地方整備局山形河川国道事務所の講演
梅ヶ枝町自主防災会学習会
（令和７年６月８日（日））

R７



中山町防災教育連絡会議
国土交通省東北地方整備局山形河川国道事務所、
教育委員会、幼保延長、学校長、防災士、町防災担当
（令和７年５月２０日（火））

- 自主防災組織等による防災訓練、学習会
- 幼保から中学生までの「切れ目のない防災教育」（令和３年度～）





正しい知識により、自ら避難判断ができるように





被害の軽減、早期復旧、復興のための対策 24

流域治水オフィシャルサポーターとの連携



「キジクル」に
AI編集動画

3Dハザードマップを興味深そうに
眺める関係者　＝中山町役場





3Dハザードマップ 水害対策に活用して

天童高生が作製、町に贈る

中山　天童高（天童市、高橋久美子校長）の生徒たちが、県内の教育・産業関係者でつくる「やまがたメイカーズネットワーク」（大津清代表）の協力を得て、水害対策を課題とする中山町の3Dハザードマップを作り27日、同町に寄贈した。町は防災教育や研修に活用する。

国土交通省の流域治水オフィシャルサポーターを務める同団体が同校に声をかけ、選択科目「地理探究」を履修する3年生16人が作製に取り組んだ。同団体から技術面でサポートを受け、想定浸水深を紙のハザードマップと同様の4段階に分けて国土地理院の3Dデータに色付けし、3Dプリンターで造形。1万分の1の縮尺で、縦約60㌢、横約55㌢のサイズとした。

寄贈式が町役場で行われ、授業を担当した森谷衣津希講師が佐藤俊晴町長に手渡した。大津代表は「プロジェクションマッピングやAR（拡張現実）を上乗せした物も作れたらいい」と話した。同町の村山聡防災安全対策室長は「高低差が可視化され、浸水被害や土砂災害の危険性が分かりやすい。防災教育の効果を高められる」と期待を寄せた。（瀬野麻衣）

山形新聞（令和７年３月３０日）

被害の軽減、早期復旧、復興のための対策 25

令和７年３月２７日　山辺・中山両町による「災害時における相互応援に関する協定」締結



山辺町と中山町 災害時相互応援

協定締結

山辺町と中山町は27日、災害時の相互応援に関する協定を締結した。安全な避難所確保や支援物資提供などを行う内容で、被害軽減と住民生活安定化を図る。

指定避難所は山辺町に18カ所、中山町に5カ所あるが、一部は洪水浸水想定区域内や土砂災害が発生する恐れがある箇所に位置する。安全な避難所確保に向け、両町は昨年12月から協定締結を検討してきた。

災害時にそれぞれ町内の被災者に支援が行き届かない場合、避難所や食料、飲料水を提供することなどを盛り込んだ。また平時に避難所や物資の備蓄状況などについて情報交換を行う。

山辺町役場で締結式が行われ、安達春彦山辺、佐藤俊晴中山の両町長が協定書を交わした。（柴崎愛）

協定書を交わした安達春彦山辺町長（左）と佐藤俊晴中山町長＝山辺町役場

山形新聞（令和７年３月２８日）

石子沢川流域の水の恵みなどの活用





『ひまわり娘』

最上川を水源にした
最上堰の清らかな水で
育まれた「つや姫」と

中山町土橋の「滝の湧
水」で醸した日本酒